

令和7年度 新任研修(記念講演・前期・経験者)を実施しました

新任研修(記念講演)

4月9日(水)に、令和7年度の新任研修(記念講演)を大田区総合体育館にて実施し、新規採用職員2336名が参加しました。

はじめに、特別区長会会長の吉住健一(新宿区長から「『個』が集まることで、『組織』の力の源泉となるように」というテーマでご講演いただきました。

まず、23区・一部事務組合の職員には柔軟性や独自性が求められていることに触れた上で、ご自身の経験を踏まえながら「一人一人が職場において自分のミッションを果たしていくことによって、一つの大きな仕事ができ上がっていくということが行政機関の仕事になっていく。」とお話をいただきました。続けて聖徳太子の十七条の憲法を始め、周囲との和やつながり、相談することの大切さについてご講演をいただきました。



【講演】特別区長会会長
吉住 健一 新宿区長

次の講演では、競泳オリンピック・元世界水泳王者の古賀淳也講

師から「自分の好きを見つける『好し』と考える視点を持つ」というテーマでご講演をいただきました。

古賀講師からは、ご自身の競泳選手としての経験などから、「好き」と思えることがモチベーションや前を向く原動力になる。そして、周囲と助け合いながら仕事に向きあってほしい。」とメッセージをいただきました。その後のオンラインによる質問コーナーでは研修生より多くの質問が寄せられ、特別区を世界一のまちにしたいと考える研修生からの、世界一になるために必要なことは何かとの質問には、「自分自身のこだわりはしっかりと持ちつつ、周囲の声に耳を傾けながら、少しずつでも自分自身で変えていくという気持ちで一人一人が持つこと。」と、大変貴重な回答をいただきました。



【講演】競泳オリンピック・元世界水泳王者
古賀 淳也 講師

研修生からは、「仕事では好きな分野を見つけ、興味を持って取り組んでいくことが大切な心構えだと学んだ。」「メリハリをつけ

て、どんな仕事も好しと思える瞬間を見つける。プロスポーツ選手と事務職でも共通して言えることがたくさんあった。」といった感想がありました。

新任研修(前期・経験者)

4月4日から5月2日にかけて新任研修(前期・経験者)を実施しました。4月4日から4月25日の期間中に、3日間を単位として、新任研修(前期)を5回実施し、4月28日から5月2日の期間中に、2日間を単位として、経験者採用職員を対象とした新任研修(経験者)を2回実施しました。

この研修では、特別区職員としての知識の習得と意識の確立を図ることを目的として、組織や仕事の進め方の基礎知識、地方自治の仕組みや特別区制度、公務員倫理や人権問題について、講義や事例演習、班討議等を実施しました。

各科目の講師として、各区・一部事務組合の職員延べ213名の方々に登壇していただき、講師自身の新任職員時代の体験談や、これまでの職務上の実体験を交えて講義を行っていただきました。研修生は、活気に満ち溢れた様子で討議・意見交換を行い、特別区の職員に求められる基礎知識を得るとともに、区を越えた仲間作りができたようです。

研修生からは、「仕事をどう進めていくのか、進めるためにどの

ような立ち回りが必要かを学べた。」「区民の方から税金を徴収する立場にあるので、その税金について詳しく知り、区民の方々に説明できるように勉強したい。」「全体の奉仕者、公務員としてのプロ意識を待って仕事にあたりたい。」といった感想がありました。



【新任研修(前期)】発表の様子

研修所からのメッセージ

新任研修を実施するにあたり、講師としてご登壇いただいた各区・一部事務組合の皆様及び研修担当の皆様は、多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。

研修生のみならず、新任研修を通して、新しい仲間と出会えたことは貴重な財産になったと思います。この研修で学んだことや得たものが、これからの公務員生活の一助になれば幸いです。みなさんの今後のご活躍を心より応援しております。

(特別区職員研修所)